



「Meet the Boss」では、毎回、Bossと愛弟子による息の合ったトークを掲載しておりますが、今回は兄玉龍彦先生のご要望により、先生が育った東大第三内科第9研究室の油谷浩幸先生、大西真先生をお招きして、3名による座談会形式とさせていただきます。兄玉先生のお考えでは、偉大なBossの薫陶を受けた弟子達がBossを囲むというかつての大学医局制度に立脚した上下関係は、現在変わりつつあり、むしろ、仲間が協力し、切磋琢磨しながら成長していくあり方が21世紀の日本の医学教育にふさわしいとのこと。長年の信頼関係に基づいた3名の先生方のこれまでとこれからのお話をお楽しみください。（編集部）

兄玉 龍彦 (こだま・たつひこ)

1953（昭和28）年3月22日東京都生まれ。1971（昭和46）年、東京大学医学部進学。在学中から第三内科第9研究室に出入りし、コレステロール研究の重要性を認識する。卒業後、都立駒込病院でB型肝炎克服プロジェクトに所属、大学を超えた混成チームによる難治疾患治療は意識改革をもたらし、東大病院に戻ると55年卒業生を中心に「臨床を変える」グループを組織、以後、仲間が協力し合うフラットな研究室のあり方にこだわり続けた。1985（昭和60）年、マサチューセッツ工科大学に留学、折しも脂質代謝分野で世界的研究と画期的新薬開発が進むなか、4年間の苦闘の末にスカベンジャー受容体を精製、遺伝子配列解読にも成功した。帰国後、遺伝子工学から発生工学と関心領域が広がり、第三内科第27研究室を主宰したが、1996（平成8）年、東京大学先端科学技術研究センター分子生物医学部門教授に抜擢された。助手からの教授昇格という異例の人事であった。先端研異動後も興味の向くままに新たな研究分野を開拓、豊かな発想と行動力を発揮し続けた。2011（平成23）年4月1日、東京大学アイソトープ総合センター長に就任、東日本大震災の直後ということで、福島原発事故に深くかかわることになった。毎週被災地で除染活動に従事したが、遅々として進まない復興の現状に対し、7月27日、衆議院の参考人質疑で「満身の怒り」を表明、一躍、時の人として注目を浴びることになった。また、これら一連の活動は海外でも注目を集め、同年、英国の科学誌「Nature」にて科学分野で話題を集めた「今年の10人」の一人にも選出されている。現在、東京大学先端科学技術研究センターがん・代謝プロジェクトリーダー。持ち前の好奇心と集中力を如何なく発揮して、臨床に貢献する治療薬開発にたゆまぬ努力を続けている。

聞き手

大西 真

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院 院長



聞き手

油谷 浩幸

東京大学先端科学技術研究センターゲノムサイエンス分野 教授

